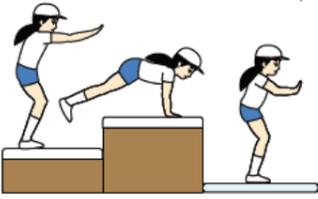
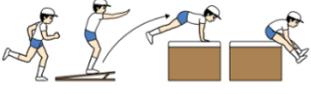


時	1	2	3	4	5	6	7	8
目標	<p>【知識及び技能】 跳び箱運動の繰り返し系の技である開脚跳びの行い方を知るとともに、十分に組み込むことができるようにする。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 跳び箱運動の繰り返し系の技である開脚跳びの行い方を工夫するとともに、考えたことを友だちに伝えることができるようにする。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 跳び箱運動の繰り返し系の技である開脚跳びに進んで取り組み、順番やきまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、場の安全に気を付けたりすることができるようにする。</p>							
コア技術	<p>① 強い踏み切りをしている(跳び箱の奥に着手し、おしりを高く上げるため)。</p> <p>② 手をつき放している(着手後、体を前方へ押し出すように)。</p>							
めあて	<p>技を知り、学習の見通しを持つ。</p>							
指導内容	<p>1. 準備運動(加茂小体操)</p> <p>2. 馬跳び</p> <p>かかわりあい</p> <p>補助</p> <ul style="list-style-type: none"> それぞれの達成度に合わせて馬の高さを変え、どんどん跳べるようにする。馬の高さは以下のようにする。 ① 1の馬(馬役は肘と膝を付け、できるだけ低い姿勢になる。手足は体の下に入れる。) ② 2の馬(馬役は手を床につき、足も軽く上げて四つん這いになる。) ③ 3の馬(馬役は足首に手を付ける。) ④ 4の馬(馬役は手を膝に着け、高い馬を作る。) <p>声かけ</p> <ul style="list-style-type: none"> 跳ぶ人は「いよよ」 馬になっている人は「いいよ」と確認をしてからはじめる。 <p>3. 学習のまとめ</p> <p>4. 振り返り</p>	<p>1. 準備運動(加茂小体操)</p> <p>2. 段差をつけた跳び箱の上でウサギ跳びから着地</p> <p>※はじめは、踏み切り側の跳び箱を1段、跳び越す側の跳び箱を3段にして、恐怖心を感じさせないようにする。</p> <p>① 跳び箱の奥に着手する。</p> <p>② 顔は前を向きお尻が高く上がるようにする。</p> <p>③ 手をつき放し両足で着地する。</p> 	<p>1. 準備運動(加茂小体操)</p> <p>2. 段差をつけた跳び箱の上でウサギ跳びから着地</p> <p>※踏み切り側の跳び箱を2段、跳び越す側の跳び箱を4段にして、恐怖心を感じさせないように留意しながら跳び箱を跳ぶ感覚を何度も経験させる。</p> <p>① 跳び箱の奥に着手する。</p> <p>② 顔は前を向きお尻が高く上がるようにする。</p> <p>③ 手をつき放し両足で着地する。</p> <p>かかわりあい</p> <p>班でロイター板を両足で踏み込んでいるかや跳び箱の奥に貼ってあるテープを着手時に超えることが出来ているかを確認し合う。</p> <p>3. 学習のまとめ</p> <p>4. 振り返り</p>	<p>1. 準備運動(加茂小体操)</p> <p>2. 段差をつけた跳び箱の上でウサギ跳びから着地</p> <p>3. 3歩助走で2段の跳び箱を跳び越す</p>  <p>① ロイター板を踏み切る際に「バーン」と大きい音になるくらい蹴ることを意識する。</p> <p>② 着いた手より、肩と頭を前に出すことを意識する。</p> <p>かかわりあい</p> <p>班で強い踏み切りをするために、かけ声をする。「いち」「に」「バーン」「押す」</p> <p>4. 学習のまとめ</p> <p>5. 振り返り</p>	<p>1. 準備運動(加茂小体操)</p> <p>2. 開脚跳び</p> <p>3歩助走で2段の跳び箱を跳び越す。</p> <p>3. 大きな開脚跳び</p> <p>調整板を2つ入れて跳ぶ。</p> <p>※ 踏切から着手までを大きくする。</p>  <p>かかわりあい</p> <p>5人1組になり、ロイター板を両足で踏み込んでいるか、両手同時に跳び箱に着手できているか、マットに引いてあるテープを着地時に超えることが出来ているかを確認してもらう。</p> <p>4. 学習のまとめ</p> <p>5. 振り返り</p>	<p>1. 準備運動(加茂小体操)</p> <p>2. 開脚跳び</p> <p>3歩助走で2段の跳び箱を跳び越す。</p> <p>3. 大きな開脚跳び</p> <p>調整板を2つ入れて跳ぶ。</p> <p>① 踏切から着手までを大きくする。</p> <p>② 紅白玉などを置いて突き放しを強くする。</p> <p>※ 突き放しと同時に視線を前に向け体を起こす。</p>  <p>かかわりあい</p> <p>5人1組になり、ロイター板を両足で踏み込んでいるか、両手同時に跳び箱に着手できているか、マットに引いてあるテープを着地時に超えることが出来ているかを確認してもらう。</p> <p>4. 学習のまとめ</p> <p>5. 振り返り</p>	<p>1. 準備運動(加茂小体操)</p> <p>2. 開脚跳び</p> <p>3. 大きな開脚跳び</p> <p>調整板を二つ入れて跳ぶ</p> <p>※ 踏切から着手までを大きくする</p>  <p>② 紅白玉などを置いて突き放しを強くする。</p> <p>※ 突き放しと同時に視線を前に向け体を起こす</p>  <p>4. 学習のまとめ</p> <p>5. 振り返り</p>	<p>1. 準備運動(加茂小体操)</p> <p>2. 本時のめあての提示</p> <p>発表方法の確認</p> <p>3. レベルに合わせた練習</p> <p>4. 発表会</p> <p>VTRの確認</p> <p>技の出来映えについて助言し合う。</p> <p>5. 学習のまとめ</p> <p>6. 振り返り</p>
指導上の留意点	<p>特に、着手の仕方と着地の仕方は、安全にかかわる大事な場面なので、どの場でも同じように取り組めるように、全体で確認する。</p> <p>1. 着手は「もみじの手」</p> <p>2. 着地は「両足」</p>  		<p>コア技術②手をつき放しの習得を意識する、手の突き放しができることによって体を起こし、より安全な着地になることを伝える。</p>	<p>跳び箱に苦手意識をもっている児童や恐怖心を感じている児童にとっては右の写真にあるような、収納ボックスにウレタンを巻いた跳び箱やスポンジの跳び箱を準備することで、挑戦しようとする意欲が高まる。そこで自信をつけた後で、通常の跳び箱に取り組むスモールステップが効果的である。</p> 				<p>発表会では、友だちの応援等もありこれまでの高さよりもよく跳べるようになる可能性がある。場の設定としては、易しいものから順に設定し、成功すれば次の場へ挑戦できるようにするとよい。</p>
知						② 観察・ICT	③ 観察・ICT	① 観察
思			① 観察			① 観察		
態	④ 観察	③ 観察		① 観察・カード	② 観察・カード			

単元の評価規準

【開脚跳び（跳び箱を使った運動遊び）】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 開脚跳びの行い方について、言ったり書いたり実際に動いたりしている。 ② 助走から両足で踏み切り、足を左右に開いて着手し、跳び越えて着地することができる。	① 友だちのよい動きを見付けたり、自分で考えたりしたことを友だちに伝えたり書いたりしている。	① 開脚跳びに進んで取り組もうとしている。 ② 順番やきまりを守り誰とでも仲よくマット運動をしようとしている。 ③ 場の準備や片付けを友だちと一緒にしようとしている。 ④ 場の安全に気を付けている。

【単元の評価規準を基にした「十分満足できる姿」】

(1) 知識・技能

単元の評価規準	「十分満足できる姿」
① 開脚跳びの行い方について、言ったり実際に動いたりしている。	・ 開脚跳びの留意点を友だちや教師に詳しく伝えたり、カードに書いたりすることができる。
② 助走から両足で踏み切り、足を左右に開いて着手し、跳び越えて着地することができる。	・ 助走から両足で強く踏み切り、腕を上げて上から大きく着手をすることで第一空間を大きくした後突き放しと同時に視線を前に向け体を起こす大きな開脚跳びができる。

(2) 思考・判断・表現

単元の評価規準	「十分満足できる姿」
① 友だちのよい動きを見付けたり、自分で考えたりしたことを友だちに伝えたり、カードに書いたりしている。	・ 友だちのよい動きの特徴を、擬態語や身振りなど多様な表現を用いて具体的に友だちに伝えたり、カードに書いたりしている。

(3) 主体的に学習に取り組む態度

単元の評価規準	「十分満足できる姿」
① 開脚跳びに進んで取り組もうとしている。	・ 開脚跳びへの習得に向け多様な行い方を進んで試している。
② 順番やきまりを守り誰とでも仲よく運動遊びをしようとしている。	・ 自分が楽しむだけでなく、グループの友だちを励ましたり、応援したりしている。
③ 場の準備や片付けを友だちと一緒にしようとしている	・ 場の準備や片付けを率先して行っている。
④ 場の安全に気を付けている。	・ 自分のことだけでなく、周囲の安全にも気を配っている。

※ 学習指導要領解説の技の例示とは異なった学年で授業を計画しています。その理由は以下の2点です。

- ① 器械運動の技を系統的・段階的に習得するため。
- ② 器械運動の授業を学年間で偏りなく行うため。